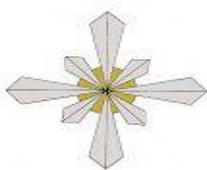


いじめ防止推進校の紹介

相馬市立向陽中学校・生徒会



【学校紹介：学校のおよさや特徴、生徒たちの課題について】

向陽中学校は、1年生4クラス、2年生3クラス、3年生4クラス、特別支援学級2クラスで、全校生徒323名の学校です。

今年度は、「やるべきことを自分で考え、自分で決めて、自分から動く」ことを目標として学校全体で様々な活動に取り組んでいます。また、部活動が盛んで、今年度もほぼすべての部活動が県大会に出場しました。

課題は三つあります。一つ目は、生徒主体の活動がマンネリ化していたことです。二つ目は、五つの小学校から生徒が集まるため、特に1年生はクラスの雰囲気になれるまで時間がかかり、トラブルも起きやすくなることです。三つ目は、他学年との交流の機会が少なく、お互いを理解することが困難なことです。

【生徒主体の実際の活動の様子、周囲の生徒の反応①】

1 いじめ根絶宣言集会の改善

(1)自作の動画を作成（各学年に1本ずつ作成）

身近に起こったトラブルを生徒会執行部が再現し、そのトラブルについて話し合ってもらいました。その結果、これまでの集会の時よりも、たくさんの意見が出てきました。これは、事例を「自分事」として捉えることができたからだと思いました。

(2)いじめ根絶宣言の改正（新たな宣言の作成）

「いじめ根絶宣言」は、12年前に当時の生徒会執行部が作成した向陽中独自の宣言です。いじめの実態と合っていないのではないかという意見が出され、改正する方向で全校生で話し合いを行いました。その結果、改正するのではなく、SNSでのいじめが起らないようにするための宣言を新たに作るようになりました。そうしてできたのが、「いじめ根絶宣言～SNS編～」です。自分たちで考えたこの宣言で、SNS上でのいじめやトラブルが防止されることを期待しています。

2 「向陽中サミット」の開催

学校名が同じである全国の「向陽中学校」とzoomで集い、生徒会活動について話し合うとともに、「いじめ問題」についても話し合いました。他校の現状や取り組みを知ることができ、有意義な時間となりました。



友達をからかう動画

向陽中学校いじめ根絶宣言～SNS編～



- ※1 私たちは、SNSでの**誹謗中傷**をしません。
- ※2 私たちは、SNSで**仲間はずれ**にしません。
- 私たちは、**デマを鵜呑み**にしません。
- 私たちは、SNSで**個人情報**を**アップロード**しません。
- 私たちは、**写真や動画の投稿・拡散**はしません。

※1 誹謗中傷（ひぼうちゆうしょう）とは、悪口や根拠のない嘘等を言って、他人を傷つけたる行為です。

※2 鵜呑み（うのみ）とは、人から言われた事を、よくも考えずに、また、十分理解しないまま、取り入れることです。

令和7年10月9日 向陽中学校生徒会



【生徒主体の実際の活動の様子、周囲の生徒の反応②】

3 全校レクの開催

他学年との交流を図り、お互いを知るために計画しました。お絵かき記憶力ゲームやフルーツバスケット、クイズを行うことにして、準備を進めました。当日はインフルエンザの蔓延に伴い、各クラスでの開催となってしまいましたが、事後アンケートでも、「またやりたい」「楽しかった」との声が99%を超えており、来年度も開催したいと思いました。



【いじめ防止ラウンドテーブルに参加して：自分たちの主張、参加して得られたこと】

他校の取り組みについて知ることができ、とても勉強になりました。グループ協議では、「いじめはなぜ起こるのか」と「いじめを防止するために」について考えました。色々な考え方があり、自分たちでは思いつかなかったものもあって、とても参考になりました。また、いじめは「価値観」の違いで起こるのではないかという共通のワードも浮かび上がり、より一層理解を深めることができました。



【ラウンドテーブルに参加した後の活動の様子やいじめへの向き合い方の変容など】

全校レクの開催に向けて、「目的」から生徒主体で考えました。いじめを防止するためには、お互いを理解し合うことが大切ではないかと仮定し、そのためには学年・学級を超えた交流が効果的だと考え、「交流を通してお互いを理解する」ことを目的としました。また、レクの内容を考えることにも注力しました。注意した点は、①コミュニケーションがとれるレクにすること、②誰にも嫌な思いをさせないこと、③みんなのできることです。準備に時間がかかりましたが、その分よく考えてレクを実施することができました。

また、「いじめ根絶宣言～SNS編～」を全校生で考えて作成することができました。様々な案が出され、それぞれが「いじめを防止するためにはどうしたら良いか」を考えることができました。全校生で案を出し合った後は、生活見直し委員会（生徒会執行部、各専門委員会委員長、各学級の委員長及び副委員長）で検討し、先生方からもアドバイスをいただきながら、何度も文言を作り直し、最終的には後期生徒総会で承認されました。難しい文言については、生徒会執行部が事例をもとに解説動画を作成し、周知に努めました。